令和６年４月１日

令和６年度　八王子市立高尾山学園（小学部・中学部）学校経営計画①

八王子市立高尾山学園
校長　　黒沢正明

Ⅰ　本校教育の基本的理念

本校における教育活動は、児童生徒の不登校状態に応じて、一人ひとりの心の安定を図るとともに、適切な学習支援による基礎学力の向上と集団活動の中で人間関係性の能力を養うことにより、生きることへの自信と社会的自立（社会性）を獲得することを狙いとして行われる。

そのため本校においては、学習指導要領に定められた内容を基本としながらも、体験型学校であるということを最重視し、児童生徒一人ひとりの実態に応じて、個別に柔軟に学習活動を実施するとともに、すべての教育活動を通じて社会性を育成するようにしなければならない。これを受け本校のミッションステートメントを以下の様に設定する。

「我々高尾山学園の教職員は、八王子の不登校対策拠点校として、学校運営協議会や関連する組織と連携し、不登校状態となった児童生徒を受け入れ、不登校状態および未学習を改善するとともに、様々な体験活動や学習活動により、社会への適応や自己に自信が持てるよう育成し、これを継続的に行うことで誰一人取り残さない教育および社会全体のウェルビーイング実現に貢献する。」

～我々の目の前にいる子供たちは“未来の日本社会”の担い手であり、日本の未来が我々の対象とする顧客である～

また、「教職員行動徹底三原則」を設定し、本校におけるガバナンス強化の一助とする。

【教育職員行動徹底三原則＋】

「やるべきことをやる」
「やってはいけないことはやらない」　｝服務の厳正と高尾山学園設立の理念を貫くこと
「相手の視点で考え行動する」　⇒相手の状況を理解し、思いやりの気持ちで行動すること
＋「目的を明確にして省けるものは省く」　⇒効率ＵＰによる働き方改革

Ⅱ　学びの多様化学校としての目標（ビジョン）と目指す姿（ミッション）

１：学校経営の目標（ビジョン）

課題意識を常にもち、全てのメンバーが相互に連携しながら、「不登校の児童生徒のための体験型学校」（体験とは：主に衣食住などの生活体験、社会体験、自然体験とする）として、次の目標を掲げ学校経営を進める。

- 児童生徒一人一人に向き合い、かつ心に寄り添いながら社会性と基礎学力をはぐくむ
- 不登校に関するノウハウや経験を蓄積し、優れた教職員を育成する
- 登校支援チームや市の組織と連携し八王子の不登校軽減のための諸活動を行う
- 文部科学省などと連携した学びの多様化学校設置推進のための諸活動を行う
（講演・研修・実習・委員会・協議会の推進・視察対応など）

２：目標値の設定（チャレンジセブン＋）

年度内における数値目標を「**チャレンジセブン＋**」として設定する。ベースプランとして70%の達成度とし、子供たち一人一人の改善の様子をきめ細かく把握しつつ数値の達成に努める。また、子供たちの状況に合わせて目標値も個々に調整（過度な高い目標や低すぎる目標は設定しない）していくとともに、出席率については子供たち一人一人の状況を分析し、生きた資料として活用を図る。また、卒業生の進路先での定着率などの追跡調査を組織的・継続的に行い本校の取組に関する参考指標とする。

① 出席率の向上　年間平均 **70%**
② 出席率が改善した児童生徒の割合　対前年度の出席率向上者（欠席減少者）　**70%**
③ 学校行事への参加率　**70%**
④ 9時30分までの登校率　70%（出席率）×70% ≒ **50%**
⑤ 授業への出席率　70%（出席率）×70% ≒ **50%**
⑥ 健康診断の受診率 **70%**　医療機関の受診率　70%（健康診断受診率）×70% ≒ **50%**
⑦ 転入前と比較し登校率が改善できた児童生徒の割合　**90%**
⑧ 卒業生の進路決定率　**90%**

３：学校経営の評価

本校の学校経営計画については次の方法により評価を行う。また、よりきめ細かく授業改善や指導の工夫につなげるための児童生徒及による授業評価(アンケート形式による評価)についても検討を継続する。

- 教職員による教育活動の自己評価（アンケート形式による評価）と考察
- 児童生徒及び保護者による関係者評価(アンケート形式による評価)と考察
- 教職員による学校経営計画の目標に対するアンケート評価と考察
- 上記のアンケート結果と考察を基にした学校運営協議会委員による評価

４：学校経営の目指す姿（ミッション）

全ての児童生徒が何らかの形で登校できるようにするということを基本的な考えとし、子供たちが安心して前向きに通うことができる学校でなければならない。特に「社会性の育成」と「基礎的な学力の定着と向上」を図ることは本校不変の目標である２本の柱であり、すべての教育活動はこの２つに集約される。そして不登校に関する拠点校となるべく、目指す姿を以下の３つの像として設定し、各項目の達成によりビジョンを具現化する。

【目指す学校像】

様々な社会環境変化の中、子供たちに寄り添い、心の安定を図りつつ、安全・安心な、そして明るく楽しく、通いたくなる学校を作る。

- 児童生徒一人一人の心の安定を図り、社会性及び基礎的な学力をはぐくむ学校
- 関連する様々な組織と連携し、児童生徒の生きる力をはぐくむ学校
- 遊びや学習などのバランスの良い登校刺激があり、自ら通いたくなる学校
- 校務のデジタル化を積極的に推進し職場・教育環境の改善をし続ける学校

【目指す児童生徒像】

先ずは不登校状態の改善を図り、次に社会性をはぐくみ、そして基礎基本が未学習となった部分を無くし、将来に向けて必要となる学力を身に付けさせ、自己肯定感を高めることで卒業後も継続して意欲的に生きる力をより大きな集団の中でも持ち続けられるよう育成する。

- 様々な活動の中で自らに自信をもてる児童生徒
- 基礎基本を身に付け自らを伸ばせる児童生徒
- 自然や人との触れ合いの中で自他の気持ちを感じあえる児童生徒
- インターネットを含めた社会ルールを理解し日常の中で将来に向けて意欲的に生活できる児童生徒
- 善悪を正しく理解し、いじめを許さない児童生徒

【目指す教職員像】

従来の延長線上で考えるのではなく、常に改善を試みることが重要であり、学びの多様化学校のパイオニアとして子供たちが興味関心を引くような授業を実践しながら授業研究をつづけなければならない。また教育関係者として教職員は地域や保護者、関連する諸団体、校内にある登校支援チームとも連携が求められる。法令遵守や服務の厳正化はもちろん、すべての関係者（ステークホルダー）から信頼・期待される教職員を目指す。

- 切磋琢磨しながら高い専門性を発揮し、または身に付け、指導ができる教職員
- 職種にとらわれず互いに協力し合い、業務を遂行できる教職員
- 児童生徒の心に寄り添いながら強弱をつけた指導ができ、共に学び感動し成長できる教職員
- 課題意識を常にもち前年踏襲型ではなく、改善や努力を惜しまず継続できる教職員
- 不登校に関する知識や経験を積み、不登校の改善・未然防止などの情報を発信できる教職員

【児童生徒が養うべき資質】

また、社会性の育成と基礎学力の定着の他に、本校の児童生徒が養うべき資質として以下のものが大切であり、すべての教育活動を通してその育成に努力する。

- 自立心(自我形成)
- 自尊心（自分や他人を大切にする心）
- 勤労や奉仕を尊ぶ気持ちと責任感
- 地域の人とのつながりや地域の事を大切に思う心
- 危険を予知し自らを守る力（危険予知と情景理解）
- デジタルを生活の一部として健全に順応できる力
- 自律心（社会秩序・マナー・ルール感覚）
- 感性（自然や人の心、美しいものを感じる心）
- 健康・安全の保持増進と体力の向上
- 人命はもちろん生き物全ての命を大切にする気持ち
- 向上心（学校生活の中で学ぼうとする意欲）
- ＳＤＧｓを正しく理解する力

以上